

地域で繋がりを、楽しむ！多世代・多文化交流の新たな拠点！

〜ざらっとkiriricafe〜「あったら良いね」が形になった〜

お昼時のカフェ、スタッフとおしゃべりしながら赤ちゃんと一緒にランチを食べるお母さん、奥の席ではインド人の女性が何やら相談しています。シニアの男性は入ってきたお客さんと「日曜日は大変だったね」とイベントの話を始めます。ホールスタッフには 80代の男性。そのうち、みんな赤ちゃんとあやしはじめて、老若男女が輪になって笑い声がはじけました。カフェの前面は全面大きなガラスの開口部になっていて、午後3時を過ぎると前の道を通る大勢の小学生の姿が目に入ります。「あ、〇〇ちゃん！」と手を振れば、笑顔が返ってきます。商店街に買い物に来たママ友たちが、通りすがりにカフェの中に知った顔を見つけて手を振ります。カフェの中にも外とつながっている、なんだか不思議な空間が霧が丘グリーンタウン（霧が丘団地）にできた。ざらっとkiriricafe（通称キリカフェ）です。

キリカフェの特徴は、運営メンバーの多様性にあります。地域で活動する子育て世代・シニア世代・国



商店街の空きテナントの一面を整備。中からも外からもよく見通せるようにガラス面を多めにしている

際交流に関する3つのグループが協働して運営組織を立ち上げました。その中で運営の中心を担っているのが子育て世代の根岸さん、武蔵さんです。霧が丘にお住まいの二人は子どもが通う保育園で知り合いました。子育てするお母さん達が多くと助け合える地域にしたいと「まちプラス」という名前をつけて活動を始めた頃に「コロナ禍となります。家から出られないことが孤立を深める危険がある。だから助け合いや、つながりが大事」と自分たち

の活動の必要性を改めて感じて、コロナ禍であっても活動を停滞させずにいました。そのような中で、地区社協やケアプラザが関わり、シニア向けの取り組みを行っていた「福祉のまち霧が丘」（シニアグループ）、インド人の方たちと交流活動している「霧が丘インターナショナルコミュニティ（KICC）」に出会い、3者で定期的に情報交換会を持つようになりました。

「まちプラス」で七五三の家族写真を撮りたくて着付けのできる人を探していたところ、福祉のまち霧が丘のメンバーに聞くとすぐに人が見つかりました。多くの方の協力をいただき地域の中で「写真館イベント」を行ったところ大好評。さらに「私たち、お魚のさばき方知らないよね」というつぶやきから、近所のお魚の美味しいお店に相談したところ、「さばき方教室」を開いてくれました。そうだった取り組みが続いているうちに、二人は地域の多くの人と知り合い、「地域にはこんなスキルをもった人がいる。何かあっても助け合える」という安心感を持



石膏ボードのバテ塗りや内壁塗装など、可能なところはシニアや地域の小学生も作業を担った

ないの！」と驚き、二人はすぐに動き始めます。まち普請を知ったのが5月30日、翌31日には福祉のまち霧が丘、KICCのメンバーに相談し挑戦することを決め、締切前日の6月1日に申請書を作成、締切当日の2日に提出しました。団地の管理者であるUR都市機構の協力も得ることができ、「コンテストは無事通過」

「私たちのための制度」を証明するかのように、2次コンテストでは満票を獲得しました。コンテストに挑戦している期間について、根岸さん、武蔵さんは「締め切りまでしなければならぬことは沢山ありましたが、逆に締め切りがあったからこそ、色々な課題を乗り越えるこ

とができたと思います。そして、それはこの場所を継続していくためには大切なプロセスだった」と言います。

カフェの整備に向けては資材高騰のあたりを受け、なかなか工務店が見つからないなどの課題が発生しましたが、それもこれまでの活動と同じく多世代・多文化の様々な人の知恵と労力を持ち寄り解決できました。そして、令和5年1月にキリカフェがオープンしました。

キリカフェのお勧めは、街の料理自慢が毎日担当するランチ。インド人が担当する「本格カレーの日」、カウンターにお惣菜が並ぶ「お惣菜パイクングの日」など、曜日ごとにバラエティに富んだメニューを提供しています。



料理自慢の手による日々のランチは大人気

また、いろいろな「あったらいいね」がキリカフェに寄せられるようになり、「学習のサポート」や「離乳食」に関する講座、地域で活躍する人をゲストに懇談する「車座トーク」などが生まれました。元々活動していたインド人の大人向けの日本語教室や子ども向けの英語教室もキリカフェができたことで定着しました。他にも、インド人からの希望で、近隣のスーパーでは手に入り



各種教室は子どもも大人も多国籍。(左)子ども向け英語教室、(右)大人向け日本語カフェ

が作って提供してくれるようになり、朝の野菜が並ぶ時間はまるでトルインディアです。そのため、この地域に引越してきたインド人がますます訪ねてくる場所にもなってきました。「日本の小学校に子どもを入れたい」という相談者が訪れたら一緒に申請書を書くなど、ニーズに合わせて徐々に事業が増え、多国籍・多世代の住民にとっての地域の頼れる場になりつつあります。また、放課後は子どもが「トイレを貸して下さ

い」と駆け込んで来たり、宿題を持ってきて熱心に取り組む姿もあり、子どもの居場所としても定着しつつあります。

「スタッフの数はまだまだ足りないし、持続可能な場にするためには、給料を払うことも考えたいし、課題は山積み！」と根岸さん、武蔵さんは言いますが、きっと地域の人々さんの人の知恵とスキルで乗り越えられるはずですよ。

地域で繋がりを、楽しむ！多世代・多文化交流の新たな拠点！(緑区)

整備主体：まちも霧が丘現NPO法人 霧が丘ざらっとほーむ

整備場所：緑区霧が丘3丁目26番1号305

整備内容：コミュニティカフェ

竣工時期：令和5年1月

